

私のものごと

飛鳥建設株式会社
土木本部
新幹線立岩トンネル作業所

かわむらゆずき
川村 柚稀



自己紹介

私は旅行をすることが好きで、各地域の街並みや景色を楽しみながら街を散策することがあります。もともと都市開発やまちづくりに興味があり、地域活性化のためのまちづくり計画を学びたいと思っていたので、大学は都市環境学科に進学し、そこで土木に出会いました。入学してから土木に関するコンクリートや土質、構造力学、道路工学を学び、少しずつ土木に対して関心を持つようになり、就職活動をしていく中で、まちづくりの一環として建設業のものづくりがあることを知りました。一つの大きなものを作るこの大変さはもちろんですが、できた時のやりがいや達成感について先輩方からお話を聞き、話している先輩方がとても生き生きしていたこともあり、私もその一員として仕事をしてみたいと思ったことがきっかけで土木の建設業に関わってみたいと思うようになりました。

これまでの業務や仕事内容

入社してから約二年は本場でトンネルの現場支援業務を行い、主にトンネルの解析業務を行いました。二次元・三次元FEM解析を用いて、事前にトンネルを掘削することで地山がどのように変動するかを確認したり、掘削後の実際の変動と解析結果がどのように違いがあるのかを確認したりし、次の掘削に備

えるための解析を行います。実際に現場に行き、現場の方々から話を聞くことで、解析業務だけでなく現場業務や現場状況についても知ることができ、入社直後の私にとって大変勉強になりました。また一つの現場だけではなく、多くの現場に行き、いろいろな工種の工事を見学できたことは、私にとってとても貴重で有意義な二年間だったと感じています。

初めて配属された現場は、道路トンネル工事の現場でした。モノレールや県道、自衛隊基地の直下を通過するトンネル工事で、低土被りの難工事でした。約二年在籍し、地盤改良工や仮設土工、トンネル工を担当しました。初めて任せてもらった地盤改良工では、品質・出来形管理はもちろん、自衛隊基地へ繋がる燃料管下の改良を行うときの施工管理を行いました。施工フローや、燃料管の変位管理方法及び変位対策について事前に考え、実際に管理しながら施工し、無事に改良を終えることができた時はとても嬉しかったです。仮設土工では、施工に必要な位置だし測量から施工サイクルの工程管理を行いました。複数の業者と打ち合わせをし、施工サイクルに合わせて効率よく安全に作業が進むように工程を考え、実際に施工を工程通りに終え、完成した時は達成感とやりがいを感じました。トンネル工では、実際に施工していく準備測量を主に行いました。掘削が進んでいくことで日々の測量の成果が目で見えることができ、変わっていく風景にとってもワクワクしながらトンネル施工について基礎から学ぶことができました。

現在は新幹線トンネル工事の現場において、測量に加えて、品質・出来形管理や材料管理、施工準備を担当しています。掘削の進行に合わせて、材料の搬入日時を調整や、品質・出来形確認を行っています。計画や準備に不備があり現場でバタバタしてしまうことがあるので、スムーズに施工が行えるように心がけていきたいです。



仕事風景

女性の強みを武器に

工事現場というと、毎日ヘルメットを被っている男社会というイメージが強いと思います。私が入社した当初も現場で活躍している女性は少なく、実際に現場に出た時の自分を想像することができなかったです。実際に現場に出た時に男性の方たちと同等に仕事ができるのだろうか、そもそも体力が追いつくのだろうか、など不安はたくさんありました。しかし、実際に現場に出て仕事を始めると、負けず嫌いの性格もあり、体力が持つかどうかよりも男性に負けずに仕事をしたい、「女性だから」といって逃げたくない、という意識に変わっていききました。また、女性ならではの女性だからできることもやっていこうと考えるようになりました。

重い測量機や計測器を持つての測量や品質確認は確かに男性の方が早く、スムーズに行えると思います。しかし、現場を進めていく上では、各業者さんとの調整も必要不可欠なことであり、効率よく進めてもらうために相談しながら施工をしなければなりません。そのやりとりは男性の方よりも受け入れられやすく、話を聞いてくれる人が多い印象を受けました。もしかしたら「女性には強く言えないから」という人もいたのかもしれませんが、これこそが女性ならではの強みであり、武器になっていると思っています。

現場の仕事は、外で行う測量以外にも工程管理や出来形・品質管理、材料管理、安全管理とさまざまです。現場

が効率よくスムーズに進めていけるように各個人が考え、できることを行っていくことで出来る上がるものを見た時の達成感は感慨深いものがあります。まだ男社会のイメージが強い建設業ですが、今では現場配属の女性も増え、多くの現場で活躍しています。女性だからできること、女性ならではの強みを各個人が持ち、仕事に活かしていけるように私自身も日々勉強し、時には相談しながら仕事をしていきたいと思えます。また、これからは女性がより一層の活躍ができる環境になっていくことを願っています。



函館観光

川村さんからのバトンをしっかりと受け取りました。次号では、農業用水に関わる私の仕事状況や仕事を通して感じる女性活躍、ワークライフバランスなどについてお伝えします。楽しみにしてください。

関東農政局利根川水系
土地改良調査管理事務所企画課

恵美須美生

